



OPEN THE DOOR TO YOUR FUTURE

外国留学中間レポート



留学中のみんなから、中間レポートが届きました!



2018 外国留学中間レポート SPRING

目次

アメリカ	ニューヨーク州立大学バッファロー校			
	文学部英語英米文学科	4年	橋川 航	2
	パデュー大学ノースウェスト校			
	経営学部経営学科	4年	南出 結子	3
	ウイーバー州立大学			
	文学部英語英米文学科	4年	岩岡 里佳子	4
	スノー・カレッジ			
	文学部英語英米文学科	4年	當山 鎮也	5
	文学部英語英米文学科	4年	吉田 穂乃香	6
	ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム			
文学部人間科学科	3年	樋上 豪志	7	
カナダ	ビクトリア大学			
	文学部英語英米文学科	4年	石原 万里菜	8
	文学部英語英米文学科	4年	廣岡 有紗	9
	カールトン大学			
	文学部英語英米文学科	4年	岡本 情	10
	文学部英語英米文学科	4年	鈴木 康平	11
イギリス	リーズ大学			
	マネジメント創造学部マネジメントコース	3年	姉崎 惇介	12
	マネジメント創造学部特別留学コース	3年	熊澤 天斗	13
	マネジメント創造学部特別留学コース	3年	笹田 もも	14
オーストラリア	マードック大学			
	経済学部経済学科	4年	小曾根 晋	15
	マネジメント創造学部マネジメントコース	3年	水野 茉優	16
韓国	東義大学			
	経済学部経済学科	4年	吉見 哲也	17
	慶熙大学			
	経営学部経営学科	4年	金子 百花	18
台湾	東海大学			
	経営学部経営学科	4年	喜田 佳世	19

ニューヨーク州立大学バッファロー校（アメリカ）
文学部英語英米文学科 4年 橋川 航
【交換留学】留学期間：2017年8月～2018年5月



長期の冬休みが終わり、春学期がスタートして、二、三週間目ぐらいです。今学期は、取りたかった言語学を中心に授業を取っていますが、秋学期は、個人的に興味があった差別、特に黒人差別についての授業を取りました。その授業を通して、差別について感じたことを少し述べたいと思います。

移民の国のアメリカで、公共の場、もちろん大学内でも様々な人種の人たちがいます。特に食堂に行くと、不思議なことに、ある程度、同じ人種同士が固まって座っていて、本当に世界の縮図のようになっています。その中にももちろん黒人の学生もいます。客観的に見るだけでも、これだけたくさんの人種がいれば、心無い言葉や行動をする人もいます。その黒人差別での授業では、およそ三十名の内、半数以上が黒人の学生でした。そのクラスの中の子の経験談によると、朝方でまだ少し暗かった時間帯で、用があるにも関わらず、

空港の駐車場に停止してただけで、警察の人に疑われたと言っていました。また、実際に、市民を守る立場にある警官が、黒人に対して暴力を振るった銃撃事件も記憶に新しいと思います。何百年という歴史的背景があり、差別に屈せず立ち向かって解決しようとする人とトラウマになって精神的ダメージを受け、立ち上がれない人に分かれるみたいです。日本に差別はないとは言えませんが、正直、アメリカと比べるとそこまでひどくはありません。アメリカのような複雑な社会の中で、差別を受けた人だけの問題にせず、一人の人間としてその歴史を理解し、一緒に考えることが大事だと思います。いじめのように、見て見ぬふりも差別をしている立場と同じようなものです。世間的には当然、認められていませんが、やはり見えないところでは残念ながら存在しているように感じます。



自分自身も、留学する前は、差別については漠然とした考えしか持っていませんでしたが、実際授業を受けることで、差別に対する考え方だけでなく、人に対する接し方も改めて、考えさせられました。その授業を取っていた大半は、程度がどうであれ、実際に差別を受けた、もしくは感じたことがある人たちです。個人的な意見ですが、実際に“悲しみ”を受けた分、彼らは“優しさ”も理解したのだと思います。自分では何気ない言葉を発したつもりでも、相手は傷ついたり、怒りを感じているかもしれません。お互いが気を付けて、相手に対して敬意を持っていれば、気持ち良く過ごせるのになあと感じました。だから少なくとも自分はそういうことを意識して、人を尊重できる社会人を目指したいと思います。



パデュー大学ノースウェスト校（アメリカ）
経営学部経営学科 4年 南出 結子
【交換留学】留学期間：2017年8月～2018年5月

待ち望んでいた留学生活が始まってから約7カ月が過ぎ去り、残すところ2カ月となりました。帰国が近づくにつれ、色々なことに一喜一憂しながら過ごしたこの期間は私にたくさんの影響を与えてくれています。

現在は春学期も折り返し地点になりました。春学期の前半は、悔しい思いを何度もした気がします。課題の量は秋学期に比べて、断然多くなっていたし、授業で意見を求められる回数も増えました。来た当初よりは、先生の英語は聞き取れるようになり、授業中にも“考える”余裕はあります。それでも、思っていることをうまく伝えられないことや、授業内容についていけないことがあります。質問されたことに対して自分で答えがわかっていたとしても、その答えに確信はもてないし、堂々と発言することもできません。時間が経てば、ほかの生徒が答えてくれて、自分の答えがあっていたと気付きます。その時にいつ



も「言えよ良かった。」と後悔します。予習をしてから授業を受けているのに、言語の壁のせいで、自分に自信が持てなくなって、悔しい思いをします。だけど、口に出さないと先生に対してアピールはできないし、成長しないと気付きました。まだ完全に何でも発言できる！というわけにはいきませんが、絶対に後悔したくないし何もしないと変わらないということもわかっているので、少しずつ発言するようにしています。むしろ頑張れるチャンスなので無駄にならないように頑張ります。こう思えるのはそれ以上に楽しいことがたくさんあるからです。

例えばダンスチームでの活動です。チーム全員踊ることが大好きでぶつかることもあるけれど、バスケの試合に向けてたくさん練習をしました。チームメイトがいつも話しかけてくれてみんなで写真を撮ったり、ダンスの教えあいをしたり、英語での表現の仕方をたくさん学ぶことができた場所です。友達の輪も広がって、週末は課題を済ませて外出し、リフレッシュもしています。大型の休みにはアメリカ国内を旅行しそれぞれの雰囲気味わうことができました。一つの国なのに州によって全く雰囲気も気候も違ってなんて面白い国なんだろうと思います。それぞれの地域に情緒があって、歴史があって、ここに留学に来たからこそできる貴重な経験をしました。

残りの二か月間、周囲の方への感謝を忘れずに、一日一日大切に、悔いなくたくさんのことを吸収して留学生活を終えられるように頑張ります。



ウイバー州立大学（アメリカ）
文学部英語英米文学科 4年 岩岡 里佳子
【交換留学】留学期間：2017年8月～2018年4月



アメリカに来てから早くも7か月が経とうとしており、過ぎ行く日々の早さに驚くとともに毎日を十二分に楽しむように心がけながら過ごしています。今年のユタ州は例年に比べると積雪量が少ないと言われていましたが、2月の半ばにはかなりの量の雪が降り、地元の神戸では経験できないような冬景色に驚きました。

学習面では、まず秋学期を無事に終わられたことに安心しました。授業内容は言うまでもなくハードなもので、特に English の授業では課題の多さとその内容の難しさに悩まされました。しかし分からないところはオフィスアワーに行って直接教授に質問し、教授に自分のことを覚えてもらうようにアピールしました。すると授業中に困っていたら、気にかけてくれて何度も説明をしてくれました。私の書いたエッセイについても高く評価してくださり、アメリカに来てからの努力だけではなく、そのために取り組んだ TOEFL の勉強もまじめにコツコツとしてきてよかったなと思いました。総合的な成績は 3.5 以上で、Honor Award を受賞しました。その知らせは実家にも届いていたらしく、親孝行ができてよかったです。春学期では English などのほかに soccer や skiing などの recreation の授業を履修しています。Lecture の授業とは違って生徒同士の距離が近く友達も簡単にできました。楽しむためだけに履修したつもりが、留学生生活を有意義なものにするひとつの大切な要因となりました。



生活面では、慣れが出てきたからこその悩みもたくさんあります。例えば、ルームメイトと話す機会が自然と減ってしまい、不満をぶつけあうだけの関係の時もありました。しかしその時にいかに自分の気持ちを伝えるのが大変で、それがいかに大切かを学びました。英語に自信がないからと言って逃げるのではなく、たとえうまく伝えることができなくても、伝えようとする姿勢を見せることが必要で、そこが私に欠けていた部分だと気が付きました。もともと精神的に強い人間だと思っていたけれど、さらに鍛えられているように思います。



また、冬休みの期間ではシアトル、ニューヨーク、カナダなどたくさん旅行に行きました。どの行先も気に入ったし、もう一度訪れたいと思うけれど、帰ってくるたびに留学先をユタにしてよかったと思います。その町の静けさか、人のやさしさか、何かは分からないけどユタが留学生の自分にあっていると感じました。そして改めてユタを選んでよかったと思いました。残り2か月しかこの生活を送ることができません。日本に帰ったときに自分になにが残っているのか、楽しみにしながら過ごしたいと思います。

スノー・カレッジ（アメリカ）
文学部英語英米文学科 4年 當山 鎮也
【奨励留学】留学期間：2017年8月～2018年4月

勉強面において、秋学期の間はESL、春学期はレギュラークラスを取っていました。正直授業が始まった時は自分の英語力がそこまで良くないということもありまして授業についていけるかどうかかなり不安でした。ただ授業後に先生に質問や内容確認等をすることによって授業についていけるようになり、最終的には全てのESL科目を合格することができました。また、そのESLクラスで仲良くなった人がかなりいて、授業がなくて暇な時にインターナショナルオフィスという自分と同じ留学生が集まる所でその人たちと話した



り、授業のことについて聞いたりしていました。そんな感じで秋学期を過ごしました。春学期は受けている授業が全てレギュラークラスなので現地の学生と一緒に授業を受けたり会話したりしています。レギュラークラスはESLと比べてかなり難しいですが、これまでと同じく授業後に先生に質問等をするのに加えて、クラスメートに聞いたりしています。特にクラスメート達にかなりの頻度で授業内容について質問していましたが、クラスメート達は嫌な顔をせず、親切に自分の質問に答えてくれています。春学期入る前も授業についていけるか不安でしたが頑張っています。

生活面において、秋学期の間はキャンパス内で開催されるイベントには出来る限り参加し、同じ留学生や現地の学生と顔見知りになったり、仲良くなったりしました。その人たちとは今でもキャンパス内で会った時は必ず話したりしています。平日の間は授業や課題に集中していますが週末特に金曜日の夕方や夜は同じ日本から来た留学生、その人たちの友人と一緒にバスケやバレーボールをしていました。またあまり頻度は多くないけどESLのクラスまたはイベントで仲良くなった人たちと夕飯を食べたり、遊んだりしていました。時々ある少し長めの休みの時は大学主催のショッピングツアーやショートトリップに参加したりしていました。とにかく秋学期の間は学校のイベントに参加したり、週末は友達と遊んでいました。春学期に入ってから皆のスケジュールが合わない関係上週末に会う頻度は減りましたが、時々会って皆で夕飯食べたりしています。またこの学期にはJapanese Clubに入っていました。そこでは主に日本のことについて話したり、時々クラブのメンバーと一緒にお菓子を作ったりしています。今のところ自分の中では充実した留学生活をおくれています。残り期間は少ないですが思い残すことなくように留学生活をおくりたいと思っています。



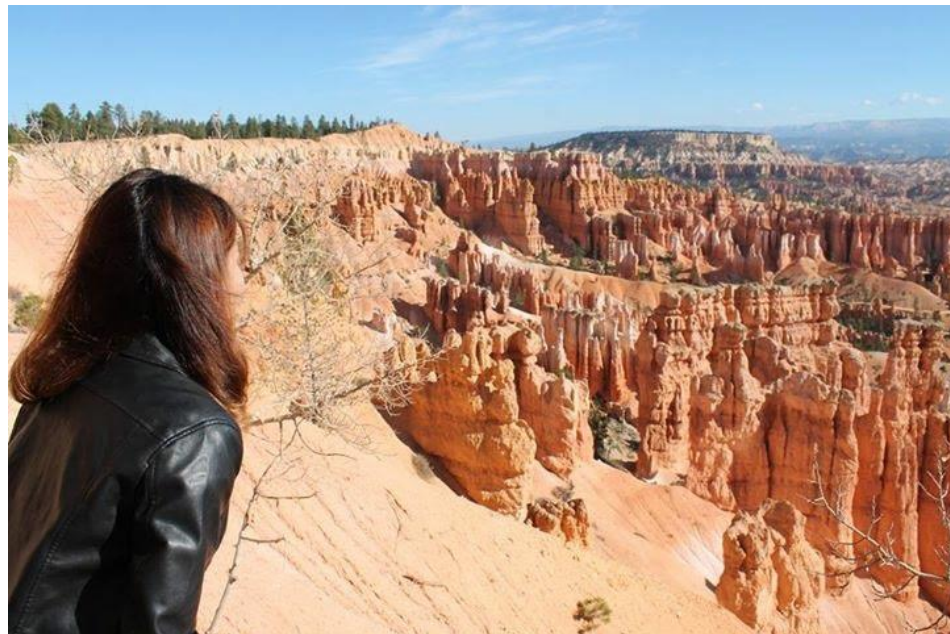
スノー・カレッジ（アメリカ）
文学部英語英米文学科 4年 吉田 穂乃香
【奨励留学】留学期間：2017年8月～2018年5月

アメリカに来てから6ヶ月が過ぎ、2セメスター目も半分を折り返してしまいました。本当に毎日が楽しく、とても充実しています。学習面に関して、私は、1セメスター目にESLのクラスを受講していました。ESLクラスは、いろんな国から来た留学生が英語を学ぶクラスです。積極的な欧米人に比べ、自分を含むアジア人は静かに授業を受けており、地域ごとの違いを知ることができました。宿題が本当に多く、なぜアメリカに来たのかとさえ思うこともありましたが、ESLの先生方が親身に英語を教えてくださったので、授業をパスすることができました。



1月に入ってすぐに2セメスター目が始まりました。私は、アメリカの大学の準学士号取得のため、専門科目の授業を受けています。授業についていき、課題をこなすことが本当に大変です。しかしスノー・カレッジの専門科目の授業は少人数制で、人数が多いクラスでも20人ほどで、先生と生徒、生徒同士の距離が近いので、すごく居心地よく感じます。私が今楽しく受けている授業はCourtship&Marriageという男女交際や結婚について学ぶ授業です。日本ではこのような授業はないと思うのでアメリカだなと感じます。

生活面に関して、日本での暮らしと比べると何もかもが違いました。私が住んでいる街は大学があるにも関わらず、本当に何もありません。公共交通機関も通っておらず、初めは本当に不便で仕方ありませんでした。しかしこれもアメリカなのかと考えるとすぐに受け入れる事ができました。



私が住んでいるユタはモルモン教信者が多い州です。正直、ユタに来るまで宗教について全く知りませんでした。アメリカ人の友達の多くがモルモン教であり、宣教師として色々な国に行ったりしています。自分とは全く異なる境遇や価値観を持っているので、一緒に過ごす事が楽しいです。早いもので帰国日まで2ヶ月ほどになりました。残り少ない留学生活を楽しみ、より有意義にしたいと思います。

ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム
文学部人間科学科 3年 樋上 豪志
【奨励留学】留学期間：2018年2月～8月

バレンシアカレッジでの様子：

バレンシアカレッジの授業は基本的に Vista Way と呼ばれる寮の中で開かれます。授業ではメキシコ、中国、ネパール、ウクライナの方々と一緒に三十人ほどでビジネスマネジメントの授業を履修します。授業はワークショップのような双方向のもので、講師から提供されたトピックを、六つの席ごとにディスカッションし、解答したものにコメントするなどの形式をとります。授業のトピックは様々で Attitude, Customer service, Communication などです。

ディズニーワールドでのロール：

現在私は Pop Century Resort 内で Quick Food Service というロールについています。このロールでは、ゲストと交流しつつ、ハンバーガーやピザ、フライドチキンやデザートなどを提供します。特にデザートを子供に提供したときや、求められるサービスに完全に応えられたときに、“Thank You!” や “Appreciated” と言われると自分が本当にディズニーのキャストであると実感できます。



友人関係：

出発前に日本で講座があったので、同じプログラムに参加する日本人の方々とは休日にディズニーに遊びに行くほどの友人です。職場では多くの方々と知り合い、アメリカや中米、フィリピンにオランダ、中国、アフリカなど様々な国籍に祖母ほどの年齢の方から同年代まで様々な人々と一緒に仕事をしています。特に同年代の人とは親しく、職場から寮まで車で送ってもらったり、休日に遊びにいたりします。

寮生活：

現在は日本人一人と中国人二人、アメリカ人一人と一緒にアパートメントで生活しています。日本人のルームメイトとは中でも同じ部屋で気兼ねなく話せる友人です。たいてい休みの時間が合わず、一週間相手の寝顔だけを見ているという生活がしばしばです。中国人のルームメイトはいつもフレンドリーに接してくれ、また中国料理をご馳走してくれます。アメリカ人のルームメイトの英語は速く、いつも聞くだけで一杯一杯ですが、片付けができないなどの抜けている面や休日にディズニーに誘ってくれるなどの面に愛嬌があり、憎めない性格です。そんな彼らと異文化交流を楽しみながら、またすれ違いが起こった際には話し合っ折り合いをつけながら楽しく生活を送っています。



ビクトリア大学（カナダ）
文学部英語英米文学科 4年 石原 万里菜
【交換留学】留学期間：2017年7月～2018年4月

カナダに来てはや7ヶ月がたちました。今思えばあっという間だったのですが、色々な面でうまくいかないことに悩み、時が過ぎるのがとても遅く感じた時期もありました。前回の報告書では1ヶ月の語学学校について書いたのですが今回はその後の交換留学生としてビクトリア大学でどのような生活を送っていたのか、また私を支えてくれた友達について書きたいと思います。

ビクトリア大学では前期は専門科目の3つの授業を受けていました。専攻である言語学の授業を2つと興味があった心理学の授業を1つです。英語を学ぶのではなく、英語で学ぶというのは初めての経験で、覚悟はしていたつもりでしたが、予想以上にハードでした。1ヶ月の語学学校で少しはリスニングができるようになったと思っていましたが、現地の学生が受ける授業での先生の話すスピードにはとてもついていくことができず、毎授業では理解よりも先に聞き取ることに必至でした。また課題にも追われ、土日は図書館のパソコンの前で過ごすことが多かったです。中でも1番辛かったのは毎週提出のエッセイです。言語学に関する短い論文を読んで書くものなのですが、書く以前に論文を読んで内容を理解することが大変でした。専門用語が多く使われているのでその分読むのに時間を要しますし、なによりライティングが苦手な私はこの課題を終えるのに毎週かなりの時間を割いていました。こういった風に授業について書くと大変な思い出話ばかりになってしまうのですが、こんな経験ができるのも交換留学ならではの、しんどい思いながらも頑張ることができました。ただ、確実に言えるのはこの前期を乗り越える上で友達の存在がなにより大きかったということです。



私には前期の初めに留学生向けのオリエンテーションで知り合ったドイツ人の友達がありました。彼女は何度か留学経験があり英語は現地の人とほぼ同じレベルで話せました。日本が好きだということがきっかけで仲良くなり、授業終わりに会ったり、週末には大学内の映画館がジブリを上映するのを聞きつけては一緒に観に行きました。また、とっている授業は違いましたが、彼女は心理学専攻なのでよく私にわからないところを教えてくださいました。長く一緒に過ごすにつれて彼女の英語も聞き取れるようになり、いつの間にか彼女と会うのが私の毎週の息抜きになっていました。彼女は前期のみの留学だったので、今はもうここにはいませんが、このビクトリアで大切な友達に出会えたことを本当に嬉しく思います。そんな留学も残り二か月となりました。新しい出会いにも期待して楽しく過ごしたいと思います。

ビクトリア大学（カナダ）
文学部英語英米文学科 4年 廣岡 有紗
【交換留学】留学期間：2017年7月～2018年4月



三月に突入し、今私がいるカナダのビクトリアでも桜が見られる時期になりました。といっても雪こそあまり見られませんが、寒さはまだまだ冬並みです。そしてなにより留学を終えて日本に帰国するまで二ヶ月を切りました。信じられません。この私が半年以上親元や今まで生きてきた国を離れて生活してきたことに、驚きが隠せないです。人間やれば何でも出来るということを信じて留学に挑みましたが、本当にそうだと実感してばかりでした。生まれて初めて一人で飛行機に乗ってロサンゼルスに行ったときに一番そう感じました。日本語は全く通じない、

まわりに協力出来る友達もいない、このような状況に不安を抱きながらも、思い切って行動が出来たこの瞬間に自分の成長を感じることが出来たのです。そして世界共通語である英語が使える喜びもこのときに感じました。自分には行動力が足りないと前々から思っていたので、このように自分の中の変化に気付けたことは、留学して良かったと思えるひとつの大きな理由です。人間、やれば何でも出来ます。

そしてさらにもうひとつ、留学して感じた大きな変化は、英語を話すことへの抵抗が無くなり間違えることへの恐怖を感じなくなったことです。ビクトリアに来て五ヶ月経ったあたりからこう感じ始めました。それまでは言いたいことがあっても間違えるのが嫌だから言わない、ということがよくありました。でも今では、間違えていても伝えたいという気持ちが増して、コミュニケーションが盛んになったと思います。たとえ自分の英語が間違っていたとしても、相手は理解しようとしてくれるし、会話は十分に成り立つことに気付きました。そうなれば、英語を話すときにためらうことは何もないと思います。



むしろ間違っても話せば話すほど相手がある間違いを正してくれて、少しずつ自分の英語が確実なものになっていくので、話さないのはもったいないです。

日常生活としては、平日は授業後に図書館に行ってノートをまとめたり、現地学生の友達と宿題を一緒にして助けてもらったりしています。休日は課題があればそれをしたり、部屋で映画を観たり、友達と食事に出かけたりと有意義に過ごしています。あと二ヶ月も無い留学生活ですが、最後まで英語力を上げるためにもがいていきたいと思っています。



カールトン大学（カナダ）
文学部英語英米文学科 4年 岡本 情
【交換留学】留学期間：2017年9月～2018年4月



帰国まで約1ヶ月になりました。やっと日本に帰って家族や友達に会える！という思いがある反面、カナダできた友達に会えなくなる寂しさもあり、複雑な心境です。

勉強面に関しては、来たばかりの頃に比べると、とてもレベルアップできたように感じています。初めて受けたクラス分けテストで下から5番目くらいの点数を取り、毎週2時間の追加授業を受けていた(強制)私ですが、最後の個人プレゼン、グループプレゼン共にクラス最高評価をもらうことができました。クラスメイトや周りの学生たちの意識の高さに影響されて、勉強に対する姿勢が変わったおかげだと思えます。わからないことをわからないままにしておくのではなく、TAや先生に質問に行くなど、自分から行動することが大切だと学びました。

生活面では、どれだけ自分が両親に頼って生きてきたか気付かされました。相変わらず自炊は面倒で、ミールプランを取っておけばよかったと少し後悔しています。Thanksgivingという祝日には、現地の人のお家に招待してもらい、ターキーを食べたりジェンガをしたりして遊びました。日本に興味があったみたいで色々質問してくれたのですが、知らないことばかりだったので、もう少し日本について勉強しておくべきだったと思えました。プレゼントも頂き、楽しい時間を過ごすことができました。また、二泊三日でスキーやキャンプファイヤーをするイベントにも参加しました。ただ、スキーというよりも氷上を歩くだけだったので少し残念でした。新しい友達もでき、たくさん英語が使えたので良かったです。



雪の上に寝転がっている写真と、スキーを楽しんでいるのに寒過ぎてなんともいえない顔をしている僕の写真を載せておきます。(その日は-27℃でした。)最近友達とLinguavisionという第二言語学習者の為の歌のコンテストに向けて練習しています。日本語で歌う参加者もいるみたいなので楽しみです。残り1ヶ月、悔いの残らないように毎日大切に過ごしたいと思えます。

カールトン大学（カナダ）
文学部英語英米文学科 4年 鈴木 康平
【交換留学】留学期間：2017年9月～2018年4月

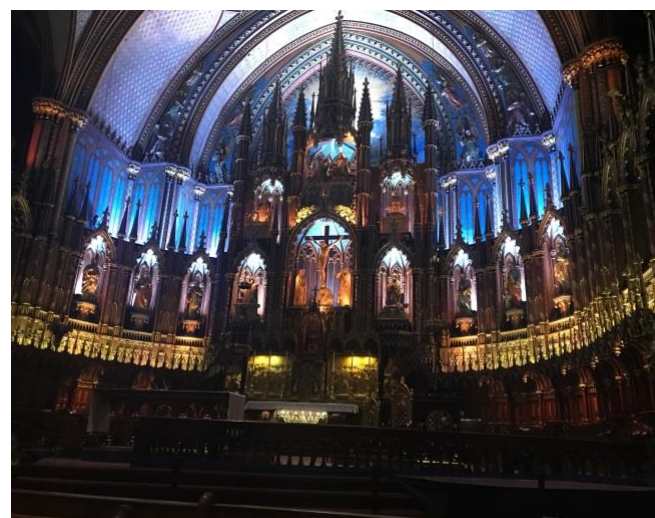
カナダに来てすでに半年が経ちました。留学開始当初は半年なんてまだまだ先のことのように感じていましたが、月日は経ち、残り1ヶ月半しかないということが信じられません。それほど私にとってはあっという間に感じ、充実した日々であったように思います。

生活面ではカナダの生活にもすっかり慣れて、何不自由なく生活できています。しかしカナダの冬は厳しくマイナス20度を下回る日も少なくはなく、気温に慣れるまでは相当時間がかかりました。



勉強面では秋学期から冬学期にかけて授業内容も少しずつ聞き取れるようになり授業自体には慣れてきました。一方で課題の量も膨大となり現在も日々課題に追われていますが、少しずつ自分のやりたいことに費やせる時間を作れるようになりました。Reading Weekなどの長期休みも課題や中間テスト対策に追われることがありましたが、忙しい中でも旅行に行くこともでき、勉強の合間の息抜きもしっかりできています。今学期は期末テストの他にレポート提出が3つあり、課題は多いですが、課題を進めていく中で自分の成長を感じることができています。私の履修して

いる授業自体は座学が中心でスピーキングの練習をする時間が不足していますが、大学内のクラブ活動に参加することで英語を話す機会を補っています。私はカールトン大学のフェンシング部に在籍し、カナダに来てから週2回の練習には必ずと言っていいほど参加しています。その中で新しい友達も作ることができクラブ活動以外にも一緒に出かけるほど仲良くなり、楽しく英語を学んでいる実感があります。カナダで留学を振り返れば良かったなと思うことも多いですが、あの時こうしていれば良かったと後悔することも少しありました。これから期末テストなど忙しい時期に差し掛かりますが、後悔ないように残り1ヶ月半いろいろなことを経験し、最後まで充実した留学生活を送れるように頑張っていこうと思います。



リーズ大学（イギリス）
マネジメント創造学部マネジメント創造学科マネジメントコース 3年 姉崎 惇介
【交換留学】留学期間：2017年9月～2018年6月

前回の報告から既に早5ヶ月が経過しましたが、意外なことにこの6ヶ月間を振り返っても例年とは違い、今年は速いなあと感じていません。そんなイギリス生活を過ごしています姉崎です。

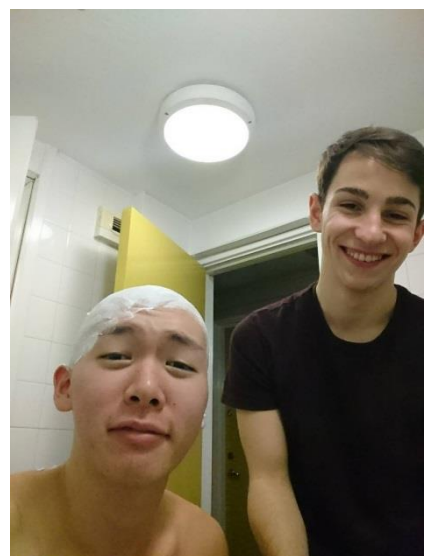
さて、留学生活も終盤に差し掛かって来ましたが、リーズ大学での留学生活がしっくりしすぎていまだに半分以上過ぎている実感がありません。また、これまでのリーズ大学での生活も上々の出来だと満足しています。

クリスマス休暇にはアメリカを横断し（ショートカットはありましたが…）高校時代以来の再会もありました。そこでは自分の英語力の向上に加え、気付けない程にゆっくりと僕自身も成長していたことが実感できました。これが自信に繋がった事もあり、新学期には今まで以上に友人と過ごす時間が増えました。今となってはリーズが自分の故郷なのではないかと思うほどに。さて最近、以前からも私の英語力はよく褒められていたのですが、自分の



英語力を以前以上に褒められるようになっていきます。しかし、自分としては英語力以上にコミュニケーション方法をなんとかしなければ本当の意味での相互理解というのは難しいのではないかと思うのです。いかに英語が流暢に話せても背景知識やコミュニケーション方法の違う文化間での友人関係は同じ国や人種同士の人々と比べてお互いの知らない部分が多いためになんとかのニュアンスで理解できる部分は少ないからです。で

すので、残りの数ヶ月間の私のゴールは、日本人流（または関西流）のコミュニケーション方法とイギリス人流のコミュニケーション方法のバランスを取り、よりストレスの少ないありのままの自分で互いに接する事です。乱暴な表現ですが、関西人のガサツなコミュニケーション能力は、自分と相手との心の間合いを測るのにちょうど良く、また、正直に思ったことを言う（言われる）ことでお互いどのよう感じているかを日常会話から汲み取れるため、互いの信頼を得るのには比較的楽だと感じています。



逆に、僕の友人たちは皆デリカシーに富んだコミュニケーションを取ります。これは敬意に満ち、非常に紳士的なコミュニケーションですが、互いを本当に理解すると言う意味ではいささか非効率でしょう。ですので、私はこの二つの性質のバランスを取り互いに取り入れたいと考えています。



この意見はあくまでも私の考察の域を出ませんが、これまで生きて来てこのようにコミュニケーション方法を変える、周りのコミュニケーション方法を変えるということは今までに考えたことがなかった為、一度チャレンジしてみたいと思います。また、この試みを通じて友人達とより深い信頼関係が築けたら嬉しく思います。では。

リーズ大学（イギリス）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科特別留学コース 3年 熊澤 天斗

【交換留学】留学期間：2017年7月～2018年6月

留学も終了まであと二カ月となっただけのことでは、高校時代の留学と大学を通してする留学の大きな違いです。一年間自分の興味のある授業を取り、様々な科目を受講しましたが、どのクラスも共通して感じることは圧倒的な英語力不足です。リーズ大学に留学するため IELTS を受け、最低ラインの 5.5 点を取れたので留学をすることができたことから、自分の中では英語力に関してはさほど心配はしていませんでした。しかし実際に授業を受けてみると、イギリス人の英語の話すスピード、専門的な単語の数々で授業中メモを取るのも間に合わず、講義を録音し寮で聞き直してみるも、本質がつかめないまま時間が過ぎていきました。試験も持ち込まないと覚えられない量の文章を暗記し、引用元のデータまで頭に入れとかなないといけなかったため、全く解けませんでした。自分の中では頑張っていたつもりでも、努力量が足りなかったからなのだと思ってしまう。いまから挽回を試みるのは遅すぎるかもしれませんが、最後は少しでも上の成績を取れるように頑張っていきたいと思っています。



勉学面に関しては上記の通りですが、文化を学ぶという意味では様々なことを経験できました。カナダにいた頃とは全く違う環境で、様々なことを考えさせられたと思います。カナダにいた頃はホームステイをしていたため、沢山の面でホストファミリーが支えてくれていましたが、初めての一人暮らしは、金銭面に関しては両親の助けがあるため、その部分は深く考える必要はないですが、家事やルームメイトとの生活など将来自分が経験するであろうことを、今できたことに関してはよかったです。また、ルームメイトやほかの友人たちと交流を深め、様々な国籍の人と仲良くできたように感じます。特に、語学学校でたくさんの中国人や韓国人の友人ができ、身近なアジアのことも全く知らないことがたくさんあり、他の人から見たら同じアジア人だったとしても、全く別の文化の中で育ってきて

いるため、考え方や言葉の受け取りかたなど全然違いました。ヨーロッパに関しては、とにかくみんなお酒を飲むのが好きなイメージで、パーティーも多く、日本の大学生活とは全く違う体験ができました。これらすべてを踏まえて、とてもいい経験ができたように思えます。



リーズ大学（イギリス）
マネジメント創造学部マネジメント創造学科特別留学コース 3年 笹田 もも
【交換留学】留学期間：2017年7月～2018年6月

リーズ大学のビジネススクールに通い始めて長い月日が経過し、残りの留学生活も残り3カ月ほどとなりました。

ここまでリーズ大学で勉強をしていて思ったことが大きく分けて2つあります。

まず勉強面においては、ビジネススクールの授業はグループワークが他の学部に対して圧倒的に多いことです。実践的な内容も多く、他人から常に刺激される環境にいるため現地生と自分との実力にギャップを感じることも多々あります。ビジネスの授業だけでなく、リーズ大学ではほかの学部の授業も discovery module という形で履修をすることができるため、私は心理学の授業を受講しています。こういった授業は、履修できる科目数が学部生よりも少ないですが、自分の幅を広げる良い機会になります。

生活の面においては、イギリスはあまり治安がいいとは言えないということです。私を含め多くの友人(特にアジア人)がすりの被害に遭っており、実際に携帯、財布、クレジットカードなど盗まれたり落としたりすると返ってくることはまずありません。経験上、イギリスの警察や事務所などに対応を求めても思っている以上に手続きに時間がかかります。BRP(Student Visa)をなくしてしまうと再発行に多くの資料やお金、時間がかかるうえ一度なくしたまま国外へ出ると再入国が不可能、また3カ月以上BRPが無い状態が続くと強制帰国となるため一番厄介だと思えます。反対に、良い面としては毎週のようにどこかでイベントがあるため、予定がない場合は気軽に友達を誘って出かけることができます。例えばリーズでは今月に初めて積もる程の雪が降り、リーズ内にある大きな公園では雪合戦のイベントが開催されていました。イベントといっても企画者がいたりするわけでもなく、公園に行くとそこら中で対戦しているところに勝手に入っていきいつでも抜けれるようなものです。このように大体のイベントは無料、もしくは数ポンドで楽しめるため留学生活をより良いものにしてれています。



マードック大学（オーストラリア）
経済学部経済学科 4年 小曾根 晋
【語学プラス交換留学】留学期間：2017年10月～2018年6月

留学開始時はネイティブの英語を聞き取ることに苦労しましたが時間が経つにつれ、徐々に聞き取れるようになり、今では英語での授業も半分は理解できるようになったと実感しています。もっと授業でのディスカッションに参加したいので、今まで以上に勉学に励もうと思います。また様々な国の人達との交流を通して、今まで興味がなかった西洋の文化、歴史といった分野にも興味を持てるようになりました。これらの分野を学ぶために西洋からの留学生と仲良くなりたいと考え、大学が主催する10日間のキャンプにも参加しました。そこでは、今まで話したことがない国の人達と仲良くなり、海の中でサンセットを見たり、星を見ながらお互いの国の話をしたりしました。日本では絶対に経験できないようなことばかりで、間違いなく人生で一番良い旅になりました。



また大学だけでなく、もっと自分の世界を広げたいとの思いから、現地のフィールドホッケーチームに参加することを決めました。私が所属しているチームは数多くの代表選手を輩出している名門チームであり、監督も世代別のオーストラリア代表の指揮をとったことがある人達です。素晴らしい環境で、自分が10年近く続けてきたスポーツをすることができてとても幸せです。目標は公式戦に自分のポジションであるディフェンダーとして試合に出場することです。練習中、チームに少しでもはやく馴染めるようにチームメイトとのコミュニケーションを怠らないようにしています。さらに試合中でははっきりと英語で指示が出せるように自分の英語力も高めています。またなによりも、現地の人達と一つのスポーツを通じて交流を深めることによって、国民性や地元の文化などを学ぶことができます。日本と違い、ミーティングで選手が積極的に監督に意見をだしチームを良い方向に導こうとしています。この文化は日本も見習わなければいけないと感じています。今はミドルチームで練習をしていますが、いつかはトップチームに参加できるように頑張りたいです。

マードック大学（オーストラリア）
マネジメント創造学部マネジメント創造学科マネジメントコース 3年 水野 茉優
【語学プラス交換留学】留学期間：2017年10月～2018年6月

西オーストラリアに来て約五カ月が経ちました。私は語学プラス交換留学コースで、ちょうど一カ月前にホームステイから寮へ、語学学校から大学へと新たな生活がはじまりました。来た当初は本当に簡単な英語も聞き取れず、会話も全くできませんでした。それに加え、オーストラリアに着いた当日から二週間は毎晩ホームシックで泣いていたので、なんで留学しようと思ったんだろうなどネガティブなことしか考えていませんでした。しかし、つたない英語力にも関わらず優しく接してくれ、遊びにも連れて行ってくれる語学クラスの友達ができ、このままでは駄目だと自分を奮い立たせ、留学を決意した理由を再確認して、気持ちを切り替えることが出来ました。私はとにかくスピーキング力が足りないと感じていたので、学校から帰ってきたら Youtube で発音の練習、ひとり事を英語に、夕食の時間にはホストファミリーと会話、そして休みの日には家から出て語学クラスの友達と遊びに行くようにしました。留学前は当たり前に行っているだろうと思っていたことが、実はとても大変なことで、留学に対する気持ちの甘えがあったことを痛感しました。これらのことを習慣的に行い、英語力がどれくらい伸びたのかは分かりませんが、以前よりも自信をもって毎日を過ごせるようになりました。

語学学校の後半は大学準備コースに変わり、エッセイの書き方やプレゼンテーションの仕方など学習内容はそこまで難しくはなかったのですが、クラスメイトが前半のコースと違って全員私よりも年齢がかなり上で、話す英語も訛りのアクセントが強くとっても苦戦しました。それでも粘り強くディスカッションにも参加し、コースが終わるころにはクラスメイトと冗談を言い合えるくらい仲良くなれました。そして無事に語学コースを合格し、二月半ばかりに遂に交換留学が始まりました。一つの科目につき、レクチャーに加えワークショップやチュートリアルがあり、予習をしていっても毎回授業が終わるころにはへとへとになっています。しかし同時に、とても刺激的で勉強になり、毎日があっという間に過ぎていきます。そしてなんとといっても大学に入り、友達が一気に増えました。オーストラリア人はもちろん、いろいろなバックグラウンドをもった人たちとも話したり、遊びに出かけたりして毎日が忙しく、楽しいです。残りもうあと三カ月しかありませんが、勉強も遊びも全力で頑張っていきたいと思います。



東義大学（韓国）

経済学部経済学科 4年 吉見 哲也

【交換留学】留学期間：2018年2月～12月



2月26日に韓国の釜山の東義大学に来て、1ヶ月ほど経ちました。毎日朝から授業を受け、授業のない時にも韓国語を使って会話したり、韓国文化に触れ合うことができるので、充実した日々を送っています。

留学に来て最初の方は、友達も少なくルームメイトの人と生活を一緒にしていましたが、徐々に学校にも慣れてきて、日本語学科の学生と仲良くなったり、サークルにも加入したことにより、多くの友達ができました。

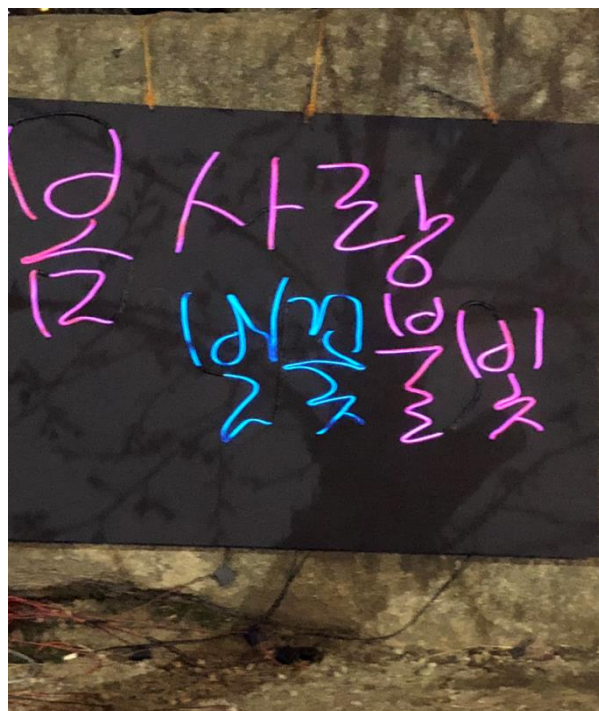
私は今まで日本語を使って生活をしてきましたが、韓国に来て韓国語を話さなければならない状況になって、自分自信が大きく成長したことを実感しています。日本にいるときには、話すことが他のことに比べれば少し得意でしたが、韓国で生活して毎日韓国語を聞いたことによって話すことよりも聞き取ることができるようになり、びっくりしています。

私が韓国の学生を見て感じたことが二つあります。

一つ目は、日本に興味を持っていてくれる人が多いということです。日本語学科の人は日本に興味を持っていて話しやすいということは当然ですが、他の学部の学生と関わる機会があった時に私が日本人だと言うことを知ると、日本語で挨拶をしてくれたり、たくさん話かけてくれるので大変嬉しく感じました。また、サークルはボウリングサークルに加入して留学生がボウリングサークルに来たのは初めてだったらしいですが、嫌な顔一つせず受け入れてくれました。このような外国人でも快く受け入れてくれるような韓国人の生活がとても好きです。

二つ目は、韓国の学生は勉強熱心だということです。ルームメイトが韓国人ですが、ほぼ毎日勉強をしています。遊ぶときは遊ぶ、勉強するときは勉強するといったけじめのある生活をしていて、尊敬しています。韓国には日本よりもこういった学生が多いと感じました。私もこのような良い所を学びたいと思います。

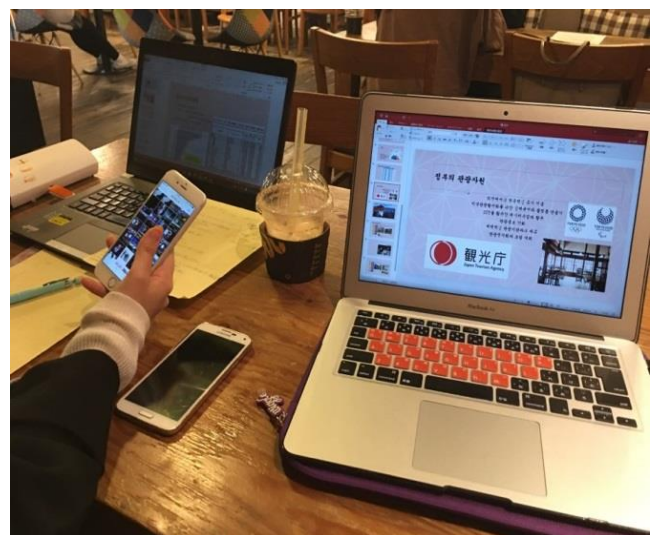
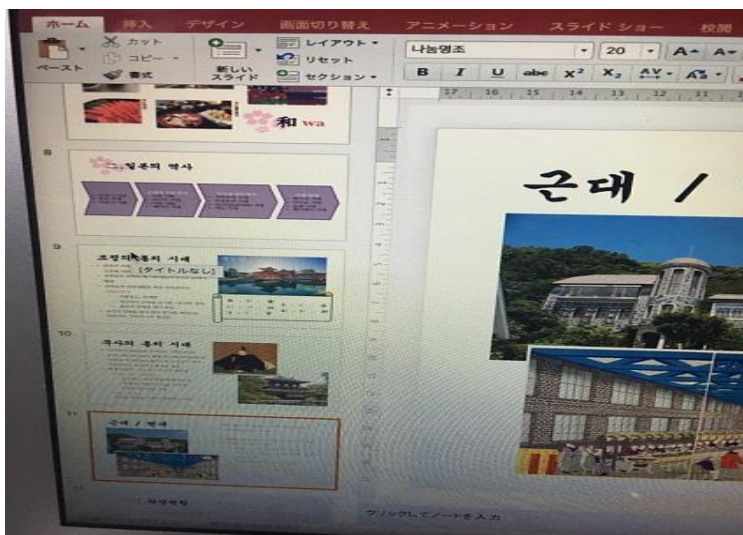
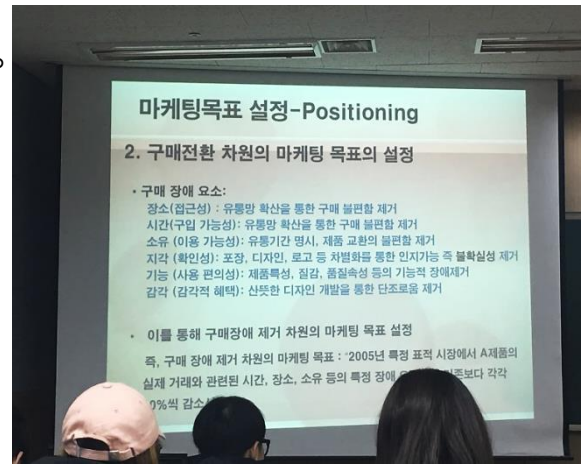
この1ヶ月間体調を崩すことはなかったですが、これからも体調面を一番気をつけて充実した毎日を送っていきます。



慶熙大学 (韓国)
経営学部経営学科 4年 金子 百花
【交換留学】留学期間：2017年8月～2018年6月

留学に来た当初は、未経験の韓国での大学生活に慣れるので精一杯でしたが、生活になれ、勉強の仕方もやっと少しわかって来た頃には中間試験の時期でかなり忙しかったです。私は韓国語能力試験でも高い水準だったので韓国語に自信がある方でしたが、大学の授業となると専門的な単語が多いので内容が少しでも難しいと感じた授業は講義中のメモに加え録音もして、寄宿舍でその日のうちにまとめ直してやっと、次回の授業についていけるという感じでした。慶熙大学は留学生がかなり多い大学なので、公平性のための配慮はありますが、外国人への特別扱いはないです。同じように記述・論述式の試験を受け、前に出たのプレゼンテーションも言葉が不十分でも韓国人の学生と同じようにしなければいけません。留学にくると自分の中で私は留学生だから、という気持ちがあって自分でハードルを下げてしまいがちですが、自分から率先して取り組むことで自分自身が納得できる結果になると実感しました。

そして、勉強する上で最も壁になったのは、それぞれの国の考え方の違いです。ほとんどがアジア圏の学生ですが、その中だけでも全く違う主観を持っているので、同じ事件でもニュースで扱われる内容、意見が異なります。その差異を知り、互いがなぜそう考えるのか、理由をたどることが私は興味深く、良い勉強だと思いました。直接、違う国に住む同年代と話すことで、感じたことは、政治に対する関心がとても高いということです。私自身が政治について、ニュースで流れてくる内容程度の知識はあるものの自ら興味を持ったり、調べたりすることがほとんどなかったので、他の国との違いに驚きました。日本にはわからなかった様々な国の人との交流を通じた気づきが毎日のようにあり、大きな刺激になっています。これから1学期残っていますが、前期に吸収したことを生かしながら、前期に達成できなかったことにも挑戦していきたいです。



東海大学（台湾）
経営学部経営学科 4年 喜田 佳世
【交換留学】留学期間：2017年9月～2018年6月

2017年9月に始まった台湾での留学生活もすでに半年が過ぎました。この半年間にはいろいろな体験をしました。日本にいたころはそれぞれの祝日の意味は大体理解していましたが祝日の意味をきちんと理解しそのことを国民みんなで祝う祝日はとても特別に感じました。中秋節では満月を祝いみんなで焼き肉をしたり、冬至には湯圓(タンユエン)という餅の中にゴマやピーナッツなどが入ったものを食べました。祝日を台湾人と同じように過ごすことで台湾の文化を深く知ることができました。特に旧正月を台湾人の友人宅で過ごした経験は特に貴重な経験だと思います。旧正月の期間は1週間ほどあるのですが昼夜問わず外では毎日爆竹の音が鳴り響いていました。大晦日の夜は親戚一同で年夜飯を食べました。この年夜飯は鶏肉、豚肉、鴨肉、豆干、魚の5つの具材を使



います。それぞれの具材にまつわる意味を聞き味わいながらいただきました。また親戚の方と一緒に麻将をしたり、親戚の子供とトランプで遊んだりとても楽しく過ごしました。招待してくれた友人や友人家族はもちろんのこと、初めて会った外国人の私に親戚同様親切に接して下さった親戚の方々にとても感謝しています。このような特別な日以外にも日々の生活のいたるところで台湾人の人情味と温かさに触れることができます。また台湾人だけでなく、中国語クラスでタイや韓国、ベトナムといった多国籍なクラスメイトと出会い毎日共に授業を受けることで、世界の広さを知ると同時に自分の将来の夢の幅が広がりました。語学クラスの先生が授業中に私たちに話した言葉の中でとても印象的な言葉があります。「いろんな世界に飛び出すことはとても大切なこと。もしも怖がって飛び出さなければ君の世界はずっと今見えている世界だけだよ。もっと外に出て自分で世界を広げようよ。」この言葉を聞いたときにその通りだなとこの半年の体験から身をもって感じました。またこんな自分でも何か恩返しができないかと、“人のために”何ができるか、常に意識するようになりました。今月から後期が始まり、専門科目である経営学の授業を中国語で受けています。難度は高いですが努力し頑張ります。残りの留学生生活を有意義に過ごせるよう時間を大切に過ごしていきたいです。